

男になる

大唐静子

夢の中で、なんの違和感もなく私は男性だった。

よく太った乳児が自分の息子だとまず認識した。そうしてみると、息子を抱いている若い女性が自分の妻だろうと思われた。近くで年輩の女性が同じような乳児を抱いていた。知らない顔だから妻の母親なのだと、夢の中の私は判断した。私の息子は双子らしかった。．．．いや、かすかに、子供が双子なら抱く人がもう一人必要だと思った記憶が引っかかっている。

目ざめたとたんに忘れてしまう種類の夢で、はっきりしているのは自分の息子と、自分が男であるということだけだ。自分の妻も、妻の母親も顔は定かでない。息子以外は、必要だとの思いが作り上げた幻想のように思われる。そして何かSFっぽいストーリーの中にいた、というぼんやりとした雰囲気が残っているのみだ。

夢判断なら、このことはどういう意味を持つのだろうか。潜在意識としての男性願望なのか、息子願望か？はたまた前世、未来世の記憶なのか．．．。ともかく、せっかく男性だったのだから男性としての日常や、社会生活を体験したかったな、と残念に思う。男性としての私の目に映るものは、今私に見えるものとはどう違っているだろうか。私の本質は、男性になることで変わるのだろうか。例えば前から気になっているあれはどうだろう。

島根県立美術館にある彫像。作者はマイヨールとある。

「河」と名付けられたこの作品は、裸の女性が足蹴にされて倒された瞬間の格好で台座に転がっている。体の左側を地に着け、右側は浮き上がっている。胸の横で手のひらを開き、両の足は開き気味で、上になった右足の膝を後ろに曲げている。正確な人体像なら肛門まではつきりと見え（せ）るポーズだ。この姿で三六十度通路に面しているのである。

身長二メートル弱のこの異様な裸婦像は、美術館ロビー奥で入場者をその姿で迎える。特別展のポスターやハガキの販売がすぐ横で行われている。

宍道湖の夕日が見られる美術館、閉館は日没後三十分という、粋な計らいのあるステキな美術館。しかし、湖に向かって開かれた長いガラスの壁面を持つ

この美しい建物よりも、横倒しの裸婦像はインパクトがある。

女性で嫌悪感を持たない人がいるだろうか。不愉快だと感じる男性はいるのだろうか？ 男性の私として、ぜひ見て感じたかったと思う。

それにしても夢の中とはいえ、自分の妻に何の感情も持っていなかった私を許せないと思う。何でなん？・・・男性の心は理解不能である。